

介護

の現場から

その45



健康園「いこい」の1日は、介護理念と事業所目標である「地域に開かれた事業所を目指す」「笑顔あふれるわが家を築く」の唱和で始まりません。地域の一員として、小規模多機能の神髄として、忘れてはならない大切なことです。

私は、利用者の介護をしながら、ケアマネジャー(介護支援専門員)と

して、利用者や家族の悩みを一緒に考え、双方に今どんな支援が必要であるかを見極めながら、最も適切と思われるサービスを提供させていただいています。

小規模多機能はなんといっても、柔軟なサービスを提供できることが特長です。「訪問」「通い」「宿泊」というそれぞれの機能もさまざまながら、それらを連動して活用されることよりの日常生活に自信を持ち、充実した在宅生活を送られている

最適なサービスを提供するために

健康園 長南 敏子
健康園事業所 介護支援専門員 兼 在宅介護型多機能副主任

利用者も多くおられます。認知症のAさんは当初、介護サービスそのものを拒否し、何とかデイサービスを利用し始めてもそれ以上続かず、ご家族も困っておられました。しかし、初めて健康園「いこい」を「日体験」で利用されたときには、家庭の延長のような雰囲気、「通い」が何となく自分に合うと感じたのか、そのまま受け入れてくださったのです。そして少しずつうちとけ、顔なじみとなった「通い」

必要な支援を見極める



厚生省のギョーザ作り
 追いつめられた介護者自身が鬱的になってしまった話もよく聞かれます。介護は大変な負担です。認知症高齢者の介護に至っては毎日が忍耐の連続で、家族は疲れきっています。到底一人で抱え込んではいけません。それほどの重労働です。その介護者の悩みを聞き、心に寄り添うことも今、私達に求められているのかもしれないと。

高齢者にとって、在宅で暮らし続けることはとても重要なことです。長年住み慣れた自宅から離れることなく、いつまでも明るく元気に暮らせることを目指し、サービスを提供しています。

出会った利用者や家族との縁を大事に、そして生まれた信頼関係を育んでいくことが健康園「いこい」の役割だと信じ、熱意にあふれた「人財」であるスタッフとともに、今日も頑張っています。

「宿泊」を二日の流れとして連動させてみたところ、最初は「あれ？」と、ささいなことで、最初は「あれ？」という表情をしていたものの、健康園「いこい」という場所にも、お世話するスタッフにも違和感を感じなかつたのか、その覚えなかつたのか、そのまま「宿泊」に移行していきました。それから順調そのものです。

定期的「宿泊」を組み込みむことで、介護の負担を感じていた家族にとっても、リフレッシュする

「宿泊」を二日の流れとして連動させてみるようになったのですが、徐々に慣れ親しみいつのまにか家族のようになっていきました。現在、その介護者は無事退院され、Bさんもおもてなされ、在宅生活に戻られておりますが、その当時を振り返ったご家族に「安心していただくことが健康園「いこい」の役割だと信じ、熱意にあふれた「人財」であるスタッフとともに、今日も頑張っています。

最近、特に「若い」を

この「いこい」は第2、第4水曜日付に掲載予定。